

1. 教員および授業の概要

①教員名： 西嶋 一泰 (NISHIJIMA Kazuhiro)

②担当科目

博士前期課程：地域開発政策専門講義 12 (地域おこし支援論)、
地域開発政策研究指導 I～IV

③教員のプロフィール

- ・大分県別府市生まれ、東京都多摩育ち
- ・立命館大学文学部学際プログラム卒業
- ・立命館大学大学院(一貫制博士課程) 先端総合学術研究科満期退学
- ・大田市地域おこし協力隊・教育魅力化コーディネーター (2016-2019)
- ・記事や映像を制作するフリーランス
- ・一般社団法人しまね協力隊ネットワーク副代表理事
- ・総務省 地域おこし協力隊アドバイザー

④所属学会

民俗芸能学会、地域活性学会、デジタルアーカイブ学会

⑤研究領域や関心をもっているテーマ

- ・日本の祭り
- ・地域おこし協力隊
- ・デジタルアーカイブ

⑥研究指導方針

その地域固有の文化や文脈をフィールドワークやインタビュー調査によって理解していくことを中心に指導を行います。民俗学・文化人類学の知見を参照し、現代を生きる人びとにむけられるさまざまな眼差しを意識しながら調査と先行研究の読解を進めていきます。また、現代的な課題としての地域おこしや、地域の課題解決へのアプローチを検討していきます。

⑦指導可能な研究テーマ (あるいは過去 (現在) に指導した研究テーマ)

- ・地域おこし協力隊に関すること
- ・地域の文化や慣習に関すること
- ・地域おこしにおけるフィールドワーク・インタビューを中心とした研究

2. 研究業績リスト

①著書

『石見銀山学ことはじめ V』令和 3 年 3 月、大田市教育委員会（共著「炭の生産と活用」
p. 16-p. 27)

②論文

(1) 「「民族舞踊/民俗芸能」の現代史——大川平荒馬踊りを事例に」『立命館大学学生論集』
第 15 号、平成 21 年 9 月、立命館大学人文学会、p. 348-p. 487

(2) 「一九五〇年代における文化運動のなかの民俗芸能——原太郎と「わらび座」の活動を
めぐって」『Core Ethics』第 6 号、平成 22 年 3 月、立命館大学大学院先端総合学術研究
科 p. 299-p. 310

(3) 「「歴史」の受容論としての国民的歴史学運動と生活記録運動——ヘイドン・ホワイト
の「歴史」概念の検討から」『生存学研究センター報告』第 13 号、平成 22 年 7 月、立命
館大学生存学研究センター、p. 177-p. 188

(4) “ Who Writes History, Why We Write History and How We Write History? ” 『生存
学研究センター報告』第 13 号、平成 22 年 7 月、立命館大学生存学研究センター p. 72-
p. 85

(5) 「限界芸術・大衆芸術・民族芸術 福田定良がわらび座にみたもの」『日本思想史研究会
会報』Vol. 28、平成 23 年 8 月、p. 25-p. 38

(6) 「プロレタリア音楽同盟における移動音楽隊の実践」『歴史から現在への学際的アプロ
ーチ（生存学研究センター報告 17）』平成 22 年 3 月、立命館大学生存学研究センター、
p. 284-p. 306

(7) 「津軽の虫送り考」『民俗芸能学会平成 25 年度大会論文集』平成 25 年 10 月、民俗芸能
学会

3. 学生に対するメッセージ

まずは、自身のフィールドに対する理解や問題意識から、研究における「問い」をつく
っていきましょう。根気強くインタビューを行い、フィールドに通うことで見えてくる発
見があるはずです。地域について一緒に考えていきましょう。